
友愛活動に取り組む仲間を増やそう

～在宅福祉を支える友愛活動セミナーが開催されました～

去る1月16日（木）から2日間にわたり、東京都において「在宅福祉を支える友愛活動セミナー」が開催され、友愛活動の実践者ら135名が参加しました（徳島県からは2名参加）。

1日目、はじめに厚生労働省による行政報告があり、担い手不足となっている高齢化の状況や社会保障（介護保険制度）の現状について説明、様々な地域課題を



解決し、誰もが安心して暮らすことができる「地域包括ケア」（地域づくり）を進めていく必要があること、そのためにも自分で行う「自助」を基本に、インフォーマルな地域資源を活用した「共助」の部分を見直す必要がある。「友愛訪問」はその中でも大きな役割を持つと説明されました。



続いて、全老連齊藤事務局長による基調報告では、本セミナーのねらいとあわせて、老人クラブにおける友愛訪問の歩みについて説明、期待されている状況も様変わりしてきている、地域包括ケアシステムに関しては、各地域で介護のおかれている状況は様々であり、支援のニーズをしっかりと把握することが大切、今後「ゴミ出し」や「電球交換」といった、ちょっとした支援の需要が増すと予想され、今まで以上に友愛活動を充実し、広げていくことが重要であると説明されました。また、友愛活動を広げていくための視点としては、将来支援される立場になったときのことを考えることであるとされました。

その後、各グループに分かれて、「友愛活動に取り組む仲間を増やす」をテーマに情報交換が行われ、地域の諸団体（自治会、町内会等）や民生委員、行政等と連携することが大切、友愛活動の事例をクラブで共有する、会員外へも積極的に広報するなどの意見がまとめられました。

2日目、徳島県海陽町から前野洋子氏（海陽町社会福祉協議会地域福祉課長）が講師

として招かれ、「老人クラブを核とした『地域支え合い』について」と題して講演が行われました。海陽町における老人クラブから発信された見守りのネットワークづくりや様々な関係機関・団体等が主体となった小地域でのサロン活動の取り組みが紹介され、そのきめ細やかな取り組み内容に参加者から感嘆の声が聞かれました。



最後に、全老連齊藤事務局長によるまとめが行われ、友愛活動は「連帯」と「主体性」がキーワード、地域づくりを進める上では、それぞれの足りない部分を補っていくことが大切であり、中心的役割を担う存在として、老人クラブのアンテナ機能（情報源）を、十分発揮すべきであると話され、全日程を終了しました。